

Digest of Science of Labour
労働の科学

2024
April
Vol. 79, No. 4



チューリップ／菅沼 緑

特集

労研を支えた人たちの群像(その1)

「聞き書き」から労研の歴史を紐解く
中明賢二／小木和孝／石井貫二

連載

軽労働化で農業の再生⑤

宇土 博

労研アーカイブを読む⑨8

椎名和仁

タイプライターの歴史とタイピスト④

三宅章介

ILOインド南アジア産業安全保健通信⑯6

川上 剛

つれづれなるままに⑯7

千葉百子

自由と想像⑯6

菅沼 緑

巻頭言

中小企業と「労働科学」

堀 潔

労働の科学

2024
April
Vol. 79, No. 4

巻頭言

俯瞰 (ふかん)

中小企業と「労働科学」

堀 潔 [大原記念労働科学研究所 所長]

1

表紙作品：菅沼 緑「チューリップ」
材料：油絵の具で着色したポリエステル樹脂
制作：1970年代初期
撮影：菅沼 緑
表紙デザイン：大西文字



労研を支えた人たちの群像(その1)

私と労研

現場に立ち続け見つめてきた労働科学の未来

中明 賢二 4

労働科学は時代の最先端であることを胸に刻んで

小木 和孝 8

「労働衛生ハンドブック」の思い出

石井 貫二 14

Series

ILOインド南アジア産業安全保健通信 (16)

活発な女性農民たち

—インドールの綿花農家との協力— 川上 剛 18

「#教師のバトン」で伝わる (32)

教職員の過酷な勤務環境

藤川 伸治 21

Series

- 軽労働化で農業の再生 (5)
農業における前屈姿勢 (腰部負担) 軽減対策
 —①腰の解剖と腰痛の機序—
 各論第4回 宇土 博 25
- タイプライターの歴史とタイピスト (4)
 —インビジブルからビジブルタイプライターの開発とその後の展開—
 三宅 章介 41

Column

- 労研アーカイブを読む (98)
尿による疲労判定法について 椎名 和仁 33
- 自由と想像 (16)
チューリップ 菅沼 緑 51
- つれづれなるままに
「ゾウのはな子」が教えてくれたこと 千葉 百子 52
- BOOKS
『ストレスの歴史 科学的研究の発展と社会・文化の影響』
「ストレス観」を見直す好機の一冊 江口 尚 56
- 『心はどのように遺伝するか—双生児が語る新しい遺伝観』**
『運は遺伝する—行動遺伝学が教える「成功法則」』
才能は咲ける場所で開花する 椎名 和仁 57
- 労働科学のページ 58
- ろうけん川柳 63
- 次号予定・編集雑記 64

中小企業と「労働科学」

堀 潔

私は経済学の観点から長年、我が国経済のなかでの中小企業が果たす役割に関心を持ってきました。言うまでもなく、中小企業は我が国の経済社会を支えるたいへん重要な存在です。我が国には現在、360万社ほどの企業がありますが、その99・7%が中小企業であること、そこで働く人は民間で働く人の約7割であること、は学校の教科書などにも載っていることで、よく知られていることです。

しかし、マスコミなどがとりあげる「中小企業」に関するトピックは「円安で原材料費やエネルギー価格が高騰し、利益が圧迫されている」「顧客企業への価格転嫁が難しく、従業員の給与もなかなか上げられない」「知名度のなさから従業員の採用が難しく、高齢化が進んでいる」など、どちらかと言えばネガティブな視点からのものがいまだ大勢を占めているように見えます。

だからと言って、中小企業の経営は厳しいのか、そこで働いている従業員の私たちの労働環境は劣悪なのか、というと、すべての中小企業がそういうわけではありません。仕事柄、中小企業の経営者とお話をしたり、機会があれば実際に会社を訪問して会社の様子を見せていただいたりお話を伺ったりすると、直面する課題

は数々あるけれども将来に対して悲観的というわけでもなく、むしろ課題を新たなビジネスチャンスと前向きにとらえて活躍の場をさらに拡げていくようなタイプの経営者が多いように感じます。なかには「常識外れ」の経営で成長していく企業もあります。業種により、規模により、地域により、中小企業のありようはさまざまです。

中小企業で働く人々と会話をさせてもらうこともしばしばあります。働き方や待遇に不満がないとは思えませんが、自分のまかされている仕事が会社全体の業務のなかでどのような位置づけにあるのかをきちんと理解し、やりがいをもつて活き活きと働いている印象を受けます。人手不足で多様な仕事を兼務しなければならぬからたいへんであったり、子育てや親の介護にも時間をとられてしまう仲間の仕事を周りの人たちで協力しながらカバーしていたり、「なんとかうまくやっている」働く人々の現場を見ることで、いつも勉強させていただいています。リモートワークが普及し、AIが我々の日常生活や仕事現場に浸透してくるなかで、彼らの働きもまた多様に変化し、進化していくものと期待し、注目しています。本研究の果たす役割もいつ



ほりきよし
大原記念労働科学研究所 所長
桜美林大学教授・副学長

そう広がりを見せることでしょう。

ご縁があつて、前任の坂本恒夫所長の勇退に伴い、2024年(令和6年)4月1日より、伝統ある大原記念労働科学研究所の所長に就任いたしました。私自身は「労働科学」についてはこれまでそれほど関心を払ってきませんでした。しかしながら専門柄、上記のように中小企業の経営者やそこで働く人々と多く接する機会を持ち、人々の「働き」や「仕事」に少なからず関心を持ってきた者として、異なる学問分野や研究者たちに接することができ、自身の学びをも広げることのできる非常によい機会をいただきましたことは幸運なことだと思っております。本研究所の発展に微力を尽くしていただく所存でございますので、関係の皆さま方のご支援とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



俯瞰 ぶんかん